

平成 24 年度 第 8 回文系チャレンジ講座を開催しました

第 8 回文系チャレンジ講座が、2013 年 1 月 16 日、「五感で楽しむ地理学」というタイトルで本学教育福祉科学部の土居晴洋教授の指導の下、開催しました。遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・安心院・日田の 4 校(57 名)と、来学した三重総合(18 名)・高田(24 名)の 2 校を合わせて、計 99 名の高校生が受講しました。

土居教授は、「“地理”という“暗記物”と考える人が多いかもしれませんが、本来“地理学”は楽しいのです。その楽しさは、ある地域や国などの場所を五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚)で感じることにあります。本当は外国などのどこか屋外でできればいいのですが、このチャレンジ講座ではそういきません。五感で何を感じることができるのか、また感じたことが何を意味するのか、少しまじめに考えてみましょう。皆さんは五感を研ぎ澄ませてこの講義に臨んでください。」と、話しました。

講義は、ビーチボール仕様の“地球儀”を受講生に向け飛ばし、各国の首都名を当てることから始まりました。受講生の雰囲気は急に和らぎました。そして、“五感”で楽しむことを実感してもらうために女性ロックバンド“PRINCESS PRINCESS”のヒットソング「DIAMONDS」(1989 年)をながし、この歌詞に“五感”を感じると言いました。

講義の中で、動画や画像を提示し、視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚を駆使して、“地理的見方”を説明しました。建物の影から季節を推察したり、動画を見るポイントなどを聞くことができました。特に、画像や動画からは判断しづらいことは現地ではなければわからない“味覚”や“臭覚”に関する事で、特に、インドの農村の住居の壁面に積まれている物が牛糞であることを説明しました。乾燥して無臭化しており、竈の燃料になることを話し、受講生からは思わず声があがりました。

大学で地理学を学ぶことは、外から入ってくる刺激や情報を知識や経験を駆使して、自分に意識させることであり、“五感”という「知覚」の重要性を説き、「心を研ぎ澄まして意識すること」が大切だと説明しました。現地に赴くことで、“五感”からわかることがたくさんあることも教えていただきました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(94%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「授業内容はわかりやすかった」(95%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(90%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(98%)、「映像はよく見えた」(96%)という結果がでました。

受講生の具体的な声として、「自校生や他校生への質問が行われ、少し緊張した。」「動画や画像が多く、様子が手に取るように理解できた。」「自分の持つ感覚をすべて使って、体験することの大切さを学んだ。」「地理は苦手だが、これから得意になれそうだ。」「遠隔配信授業は楽しい。」など、受講生の関心高さが表れていました。

